

町長・教育長の平成20年度町政執行方針に対し 会派代表者3名が重点施策をただす。

(予算概要については、「広報とうべつ4月号」をご覧ください。)

代表質問

新年度の財政予算は、 どのような措置をしたか

小野 広実 議員
(緑風会)



平成二十年度の

予算編成について

問 平成二十年度の予算編成は当初の予算段階では、収支不足額が三億五千二百万円あったが、その後、査定を経て最終的に収支不足額は一億円となった。

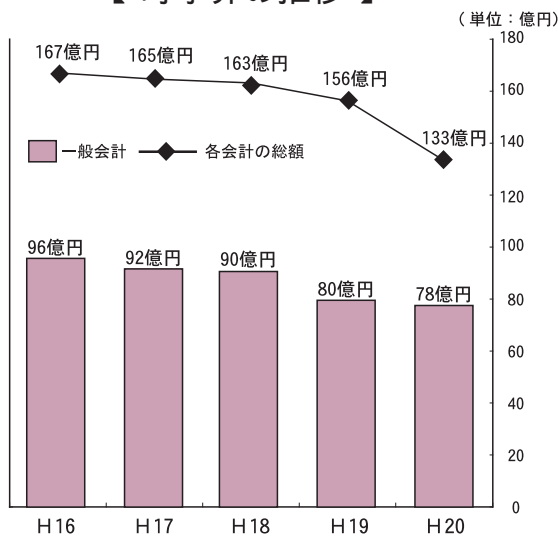
どのような財政措置がなされたのか、伺いたい。

町長 平成二十年度当初予算編成の指針である国の地方財政収支八月の試算において、本町では歳入の40%を占める地方交付税が平成十九年度分から4.2%減と示され、一億六千四百万円の減額であった。各所管で歳出の見直しをしたが、一億五百三十万円がどうしても足りないということで財源確保のために職員の人件費をカットした。

当別町の財政は健全化に向かっているのか

問 地方公共団体の財政の健全化に関する法律が国会で可決され、平成二十年度決算からは連結実質赤字比率の公表が義務化になった。赤字を出すすと大変なことになるが、当別町は財政健全段階なのか、早期健全化段階なのか、それとも再生段階なのか、どの段階にあるのか伺いたい。

【町予算の推移】



町長 平成十八年度普通会計は一億六千四百万円の黒字、連結実質赤字は国民健康保険特別会計で一億八千四百万円、下水道事業特別会計で千七百万円の赤字決算となっているが、すべての会計を連結したものは一億四千万円の黒字となっている。実質公債費比率は22.5%である。実質公債費比率は、現在、公債費負担適正化計画に基づき、普通建設事業債の借入を抑制したなかで平成二十四年度比率は17.7%となる見込みで本町の財政は健全段階にある。

地域ブランドの創出や

加工品開発について

問 町長は「農業所得の向上が重要である。そのために従来の米や麦、豆類に特化した作付から高収益作物の導入と加工品開発の取り組みが必要である」と発言しているが、実際に農家自らがブランド化や加工品に取り組み、販路を確立している例は少なく、多くの農家は他力本願となっているのではないかと考える。そこで、この様な実態を踏まえ、農業者が参加し、取り組みやすい施策をどのように進めよう

しているのか伺いたい。
町長 当別の資源を最大限に活用して生産された農産物やその加工品が、地域ブランドになり得るよう、支援したいと考えている。

児童生徒の規範意識の育成について

問 教育長は執行方針のなかで小・中学校における豊かな心の育成において、いじめや問題行動など、児童生徒の思いやりの心や規範意識の育成が課題であるとの認識を示されたが、児童生徒に対し、どのような姿勢で臨まれるのか見解を伺いたい。
教育長 児童生徒が将来、社会の一員として生きるということから考えれば、規範意識やコミュニケーション能力をしっかりと身につける指導が重要になってきていると考える。そのためには、学校での指導、家庭での実践はもとより関係機関と連携しながら地域で子どもたちを見守る体制づくりを一層、進めてまいりたい。

住民独自の事業に 町はどう支援するのか

後藤 正洋 議員
(清流)



当別町行政推進員制度

問 協働のまちづくりを進める上で町内会との連携は、不可欠である。

町内会と行政のあり方について、当別町行政推進員制度の見直しを平成二十年度も引き続き行うということだが、これまでの経緯とその基本的な考え方を伺いたい。

町長 地域と行政の情報

が相互に交わされて住民の皆さんと行政が協力し合う協働のまちづくりが一層推進できるように、

行政推進員は芽室町、職員は江別市と南幌町を先例地としてそれぞれ研修した。

地域の歴史的な経緯を踏まえ、当別町の協働のまちづくりにふさわしいシステムをもう少し時間をかけて検討したい。

住民の自発的な

事業について

問 二月にあそ雪の広場が開催された。今回は、町の助成が打ち切られて開催を危ぶむ声もあったが、住民の自発的な協力と参画により、例年に劣らない企画で多くの住民が当別の冬を満喫したと考える。これまでの事業に対する評価は、行政側からの評価という面が強かった。住民が自発的に財源を確保した上で実施したという事実は住民の実質的な事業評価であった。こういった事業に町がどういう立場でどう支援しようとするのが大事である。赤れんが6号の運営や色々なイベントがあるが、こういった点について基本的な考えを示していただきたい。



住民の協力により例年通り開催された第26回あそ雪の広場

町長 町民の自発的なイベントとして伝統を維持されたパワーや中心的役割として活躍された方々に敬意を表したい。

今後事業を継続していききたいという意思も表示されているが、そういう形になっていく場合、町としては施設の提供、あるいは人的な支援など、可能な限り連携を図っていききたいと考えている。

議会と行政の相互協力

について

問 重点施策を進めていく上で町長は議員に協力を要請している。私たち

議員も財政基盤の確立のために、町に協力しようという気持ちであることには変わらない。

ただ、議会という性格上、その権能を果たさなければならぬのは当然のことだが、議会はその独自性を保てるかどうかというのも重要であると考ええる。

私たち議員も基礎的自治体の一翼を担う議会としての役割を果たすよう努力しなければならぬが、議会と行政の相互協力とそれぞれの独自性の確保という点について、どのように考えているのか伺いたい。

町長 地方分権、地域主権の名のもとで競争力ある地域づくりを目指すには、町議会議員は、住民と役場のパイプ役や地域の要望の取り継ぎ役だけではなく、町の運営を総合的にチェックして提言する役割に専門化していく必要があるのではないかと。

議会と行政の相互協力のもとに基礎的自治体を構築したいので、議員各位の協力をお願いしたい。

事務事業の見直しについて

桐井 信征 議員
(公明党)



再構築プランの

具体的見直しは

問 行財政システム再構築プランに基づき、事務事業の見直しを行い、町民にも見える形になってきた。反面、町民に行政サービスのマイナスも確かである。政策評価のなかで外部評価を入れ、政策を評価することは、町民にとって本当に必要なサービスを見極める上で必要だと思ふ。プランのなかで様々な見直しを行っているが、具体的にどのような見直しを行ったか。

また、職員数は定数に

比べ何人減少しているのか。

町長 事務事業の見直しには、七十四項目の具体的取組があるが、このうち「行政サービスの再構築、公共施設の再編」では、平成十七年から三年間で季節保育所等の廃止、小規模小学校の統廃合、幼稚園の一元化など事業の廃止で五千七百万円を削減した。

また、事業の見直しでは、除排雪業務委託、老人ホーム管理の全面委託、道営土地改良事業の見直しなどで二億六千四百万円削減し、三年間の事務事業の見直しによる効果額は合計三億二千万円である。

職員数は、プラン策定前の二百三十六名から二十三名を減らし、今年四月で二百十三名になっている。

町内会運営の想定は

問 日本の人口について、国は、今後三十年間で千七百万人減少し、十年間以内で四百二十三の限界集落が消滅すると見込んでいるとある。高齢



弥生町セイコーマートからの道道札幌当別線

化が進むなかで近い将来、町内会組織の運営が立ち行かなくなる地域も想定され、その対応を今から考えなければいけないとある。

当別町の今後の町内会についてどのようなことが想定されるのか。

町長 早い段階で町内会組織のあり方、各町内会ニーズに応じた連携、支援を行うため、方策について協議を進めなければならず、国の情報などを早く入手して、地域や各町内会代表者と連携して支援の方向性を考えなければならぬ。

都市計画事業の

推進について

問 当別町の都市計画決定は昭和五十年に行い、さまざまな事業を進めてきて現在当別大橋の架け換え、当別大通りの全線開通に向けて工事が進められているが、稲穂通、田園通が未完成な状況にある。今後どのような計画を進めて行くのか。計画のなかでは、道道札幌当別線の改良に当たり不施行区間がある。これまでも取り組んできた事業なので今後も粘り強い折衝を行うべきと思う。西当別地区であるが、都市計画事業が本町地区と同等になったと見て平成二十一年より都市計画税の徴収が始まるが、今後西当別地区に都市計画事業の計画はあるのか。

町長 稲穂通、田園通について、財政計画に基づき、地域住民と協議、調整を図り優先順位など確認し、事業着手に向けて関係権利者のご理解が得られるよう取り進めたい。道道札幌当別線の不施行区間は今後も粘り強く交渉を続けていきたいが町の努力だけで

はなく地元町民などの署名運動にも理解を示さないことは遺憾であり、市街地に土地を持つ不在地主が余りにも非協力的であるといわざるを得ない。道路を必要とする住民のご努力に期待を申し上げたいし、議会からも応援があればありがたい。西当別地区で今後は必要とされる都市計画道路を都市計画決定していきたい。

平成20年度当別町各会計
予算審査特別委員会報告書

本定例会において付託された案件について、平成20年3月11日、12日、13日、14日の4日間に亘り慎重審査の結果、一部意見を付して次のとおり決定したので報告します。

1. 審査の結果

- (1) 議員提案第2号及び議員提案第3号
- (2) 議案第10号から議案第33号

本各案件は、原案のとおり可決すべきものと決定した。

なお、新年度から新たに始まる後期高齢者医療特別会計について、その業務執行における対応については、万全を期せられたい。

平成20年3月14日

議長 竹田 和雄 様

平成20年度当別町各会計
予算審査特別委員会
委員長 小野 広 実



中央:小野広実委員長 右:小早川孝男副委員長

4・17	4・16	4・14	4・11	4月	3・18 3・19	3・11 3・14	3・7 3・17	3・7	3月	2・29	2・27	2・26	2・19	2・15	2・6	H20・2月	
議会広報特別委員会	総務文教厚生常任委員会	産業建設常任委員会	議会広報特別委員会		意見書提出(東京都)	予算審査特別委員会	平成20年度当別町各会計	第2回定例会	議会運営委員会	議会運営委員会	産業建設常任委員会	総務文教厚生常任委員会	総務文教厚生常任委員会	(自由民主党議員会)来町	愛媛県宇和島市議会・会派	厚生常任委員会来町	上士幌町議会・総務文教

議会のひびき
(平成20年2月~平成20年4月)